

## 第3回人権教育パワーアップ講座

(講座の趣旨・目的)

部落差別の歴史と現状について学び、学校教育における部落問題学習を展開するための資質や能力を身に付けることを目指す。

- 1 日時及び会場 令和2年12月11日(金) 13:30~16:30 奈良県立教育研究所
- 2 参加者 人権教育パワーアップ講座第3期受講者6名  
人権教育パワーアップ講座第4期受講者2名 <<合計8名>>
- 3 日程及び内容 13:30 日程説明  
13:35 講義「部落史の見直し」と教育内容の創造  
—誰もが幸せに暮らせる地域社会をめざして—

### <内容(概要)>

講義「部落史の見直し」と教育内容の創造—誰もが幸せに暮らせる地域社会をめざして—  
天理大学総合教育研究センター 奥本 武裕 さん

- ・ 部落差別は日本固有の人権課題であるが、人種・民族・生活文化・身体的特徴などの面において差異のないところに生じた差別であることや、部落問題に関する取組が長く、種々の矛盾が生じていることに他の人権課題と異なる性格がある。
- ・ インターネット上にある差別的な情報を根絶するのは不可能である。また、インターネット上にそのような情報を書き込んでいる人物は、少数であると考えられる。よって、我々が取り組むべきことは、インターネットの向こう側に広範に存在してであろう社会意識の変革に向けた取組である。
- ・ 部落差別は、「周囲の人とどこか異なる。」という忌避意識からうまれてきた差別であり、その意識の形成には地域社会のありようが影響している。
- ・ 部落差別を解消する教育内容を創造していくためには、部落差別に関する基本的な事項についての学習、地域社会の肯定的な側面(協力・共同・相互扶助)と否定的な側面(抑圧・排除)についての学習、地域社会の課題を解決し、だれもが幸せになれる方途についての学習に学校の学習活動全体を通して取り組む必要がある。

### <参加者の感想から>

- ・ 部落差別は目にも見えないし、あるのかと聞かれると返答が非常に難しいものだとは思っていたが、現場での経験を積み、生徒の苦しい生活状況を見ると、今も差別は残っているということが分かってきた。ただ、学校には部落差別だけではなく、様々なことで困っている生徒がいるので、困っている生徒が困らないような学校にしていきたい。
- ・ 私の学校でも狭山事件や地域教材を扱った部落問題学習をしているが、そのことの効果や是非についても考え直してみたいと思う。
- ・ 部落問題の歴史や内容について今までも学習してきたが、歴史的にも根深く複雑でとても見えにくい人権問題であると感じている。今回の講義で部落差別の現状や歴史的経緯について少しは理解が深まったが、まだまだ分かっていないことも多くある。しかし、部落問題学習の基本となるものが教科書であることや、学習活動全体を通して取り組むことなど、今後の取組のヒントをもらえたように思う。